

令和5年第1回市議会定例会一般質問一覧表

1 日 時 令和5年3月10日(金) 午前9時30分
令和5年3月13日(月) 午前9時30分

2 質問者 (質問順)

- | | | |
|--------------|-----|-------------------------------|
| (1) 新緑水クラブ | 80分 | (1 成田佳勉、2 磯部秋廣、3 富田博巳、4 井上正人) |
| (2) 市友会 | 40分 | (5、江川祐之、6 工藤政明) |
| (3) 公明党 | 40分 | (7 蓑手純一、8 井上純一) |
| (4) 日本共産党議員団 | 20分 | (9 加藤典子) |
| (5) 青空・維新の会 | 20分 | (10 村瀬進治) |

3 質問事項、要旨及び項目

質 問 者	1 成 田 佳 勉 議 員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 公立保育園の現場が抱える課題について	1 不適切な保育が取り沙汰される昨今、保育園に向けられる目は厳しく、保育環境を見つめ直す必要性を感じる。保育環境は働く保育士にも直接的な影響を及ぼすため、これらの出来事をきっかけの一つとして心にゆとりの持てる保育体制へとしっかりと見直す必要があると考えることから、保育士の配置基準の見直しについて問う	(1) 本市の現状の保育士の配置基準で各園が抱える問題をどのように捉えているか (2) 更なる保育の質の向上のため、また、子ども達の育ちを守るためには本市独自に配置基準の見直しが必要と考えるがどうか	
	2 保育士不足の中、園長や主任も日々奮闘しており、場合によっては、配置基準すらも下回る状況で保育に当たらなければならない場合もあると思われる。このような中、保育士の必要数プラスでフリーの保育士がいることは大きなメリットがあると考えことから、フリー保育士配置について問う	(1) 本市のフリー保育士に対する必要性や考え方はどのようなか (2) 本市には、いわゆるフリー保育士と言える職員が配置されているか。また、フリー保育士は主任級等の役職のあるポジションにすべきと考えるがどうか	
	3 保育はICT等のデジタルを活用することで業務軽減はできるが、子ども達との関わりはデジタルではとって代わることはできない。子ども達に最善な環境を作るためには絶対的にマンパワーが必要であることから、常勤保育士の割合増加の考えについて問う	(1) 保育士の配置基準の見直しやフリー保育士の配置等を行う場合には併せて定数の増加が必要と考えるがどうか (2) 将来的に常勤職員の保育士の割合を増加することについてどのように考えているか	

<p>2 多様化する子育てニーズへの課題について</p>	<p>1 未就学児で発達支援が必要な子どもが過ごせる場が少ないことで、思うように働けない保護者もいる。必要な人が適切な支援を受けられる環境を整備していく必要がある中で、廃止後の保育施設2園の活用について本市の考えを問う</p>	<p>(1) 現在、市内に未就学児が通所できる児童発達支援サービスを受けられる事業所は何箇所あるか (2) 事業所の利用時間が短く、就労の時間の関係で保育園に預けて、本来受けるべき支援を受け入れていない子どもがいるため受け入れ時間を延ばしてもらえる事業所に補助金を出す等の方策が必要と考えるがどうか (3) 廃止予定の保育園跡地を、児童発達支援サービスを受けられる事業所として活用する、または、保育と児童福祉が集約し連携を図れる施設として活用する等の方策が必要と考えるがどうか</p>	
	<p>2 本市では子育て関連の窓口が様々な課に分かれていることで利用者が分かりにくい、手間がかかる等の場面がある。保育園や発達支援センター、子育て家庭等に対する支援や対応をよりスムーズにしていくために、関係部署の横の繋がりを持った、こども家庭センターの設置について問う</p>	<p>(1) 現状、市民に混乱や負担が無いよう、各課ではどのように連携を図っているか (2) 各課のよりスムーズな連携や、利用する市民や働く職員が分かりやすい明確な窓口として、こども家庭センターの設置が必要と考えるがどうか</p>	
<p>3 誰もが安心して参加できるイベントについて</p>	<p>1 市内でのイベントが再開され始め、賑わいや活気を取り戻しつつある中、屋外イベントを楽しむ際に授乳室やオムツ交換所が少ないことで不安を感じている方もいる。ふとした時に使用できる授乳、オムツ交換等の場所があることで、イベントに出かける際の不安は軽減されると考えることから、誰もがイベントを楽しめるための方策について問う</p>	<p>(1) コロナ禍以前も含め、東海まつり花火大会や東海秋まつり等、屋外イベントの際に授乳やオムツ交換が必要な方への配慮はどのようにしているか (2) 授乳やオムツ交換用の車を配置することで、屋外のイベントであっても出かけることへの不安が軽減でき、また車両であるため移動も可能なことから様々なイベントで活用することができると考えるがどうか</p>	

<p>4 働きやすい職場環境づくりについて</p>	<p>1 職員の働き方改革の一環として、人的な職場環境づくりにも目を向ける必要があると感じる。上司等の関わり方は、部下である職員の成長やモチベーションの向上に影響し、その職場環境をよくする事は働きやすい職場づくりや、各種ハラスメント等の抑制にもつながるのではないかと考える。そこで働きやすい職場環境を作るための具体策について問う</p>	<p>(1) 本市ではどのようなハラスメント研修をし、職場でどのように実践されているのか。また、その後の定着につながるフォローアップはどのようなか (2) 現在、部下からの意見や思いが明確に吸い上げられ、直接的に上司の評価につながる仕組みはあるか (3) どの部署でも、働きやすい職場環境を作るためには、上司がチームビルディングや心理的安全性等の研修等を受け、職場環境の向上に努めるべきと考えるがどうか</p>	
<p>5 小中学校のマスクの取扱方法について</p>	<p>1 マスクの着用は自由というのが基本指針であると思うが、子ども達は習慣化してしまっているため外しづらい、周りがしているから着用するといった状況もある。本市におけるマスク着用の方針と保護者への周知方法、また、今後の取扱方針について問う</p>	<p>(1) 現在の小中学校における屋内外での児童生徒及び教員のマスクの着用方針はどのようなか (2) 屋外での運動時にほとんどの児童生徒が着用している現状をどのように捉えているか。また、保護者へ基本方針の周知が必要と考えるがどうか (3) 令和5年3月13日以降の本市の小中学校におけるマスクの着用方針はどのように考えているか。また、周知方法についてはどのようなか</p>	

質 問 者	2 磯 部 秋 廣 議 員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 東海市の農業について	1 現在も3か所実施されている区画整理事業等による農地の減少及び農家の世代交代による農家数の減少等、東海市の農業を取り巻く状況が大きく変化中、今後の農業の在り方について問う	(1) 東海市における20年前と現在の総農家数及び総農地面積はどのように変化しているか (2) 東海市の市勢要覧等の農業の紹介の中で「フキの生産量が日本一」や「たまねぎ生産量が愛知県有数」等とうたわれているが、今後、どのような状況になると捉えているか (3) 新型コロナウイルス感染症対策として実施した農産物の出荷用資材や施設園芸の暖房用重油への支援の実績はどのようなものであるか。また、2事業をはじめ農業者への補助事業の継続の考えについて問う	
2 狭あい道路整備の推進について	1 旧市街地に多く存在している狭あい道路は、災害発生時に消防活動の支障となる場合や、空き家の原因となる等、問題が多いと考える。狭あい道路はセットバック等により、少しずつ整備が進められているが、なかなか進まない状況があり、中には、土地の利活用が難しいケースも発生しているため、問題の解消に向けたさらなる取組が必要と考えるが、その方針について問う	(1) 市民の安全な暮らしに大きく影響する、狭あい道路の問題をどのように捉えているか (2) 狭あい道路の対策について、現状はどのように取り組んでいるか (3) 土地の利活用に影響を与える狭あい道路について、今後どのような対策で解消していくのか	

<p>3 コミュニティセンターについて</p>	<p>1 地域活動の拠点は、今までは市民館・公民館等になっていたが、令和5年4月に緑陽コミュニティセンターが「魅力あふれる集いの場 交流する空間の創造をめざして」をテーマとして開館することとなった。</p> <p>この施設が具体化するまでには、かなり長い期間を要したと聞いているが、市と地域の間で非常に緊密な話し合いが行われてきた内容について、これからの他の地域のために把握したいものである。</p> <p>また、目新しい設備等もあり、関心が集まっていると思われるが、その内容や使用方法等について問う</p>	<p>(1) 緑陽コミュニティセンターが建設されることになるまでの経過はどのようなものであるか</p> <p>(2) 緑陽コミュニティセンターの特徴はどのようなものであるか</p> <p>(3) ボルダリングの設備がつけられるようだが、どのような使用方法を考えているか。また、安全面への配慮はされているのか</p>	
-------------------------	--	---	--

質 問 者	3 富田博巳議員（新緑水クラブ）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 生活環境対策について	1 市内南部地区の降下ばいじんの状況及び臨海部企業による降下ばいじん対策等について問う	(1) まなぶん横須賀、養父児童館・養父健康交流の家及び養父町公民館における直近の降下ばいじん量はどのようであるか (2) 臨海部企業による直近の降下ばいじん対策を市としてどのように把握しているか	
2 保育行政の現状について	1 公立保育園における駐車場の整備状況や待機児童数等、保育行政の現状について問う	(1) 居住する区域によって通学する学校が決まる小学校区のような考え方はあるのか (2) 駐車場の整備状況はどのようであるか (3) 待機児童数について、令和5年2月1日時点の状況及び同年4月1日時点の見込はどのようであるか (4) 兄弟姉妹や多胎児が別々の保育園等に入園している状況はどのくらいあるのか	
3 地域公共交通の更なる利便性の向上について	1 らんらんバスと同じく、重要な地域公共交通の柱である知多バスの更なる利便性の向上に向け、本市として要望等を行う考えについて問う	(1) 本市と大府市を結ぶ路線において、大府市から出発するバスの乗車率が高い傾向にあるとのことであるが、その要因をどのように分析しているか (2) 知多バスの太田川駅前バス停を鉄道の乗降口付近に変更するよう、市として要望等を行うことを検討する考えはあるか (3) 養父・横須賀地区の方が、名鉄加木屋中ノ池駅を利用して公立西知多総合病院へ行く場合、太田川駅での乗り換えが不便であることを心配する声を耳にすることから、尾張横須賀駅と病院を結ぶ新規路線の開設に向けた協議等を行うことを検討する考えはあるか	

質問者	4 井上正人議員（新緑水クラブ）		
質問事項	質問要旨	質問項目	備考
1 東海市の知名度アップ等について	1 鉄とランのまち東海市と言って長年になるが、まだまだ東海市の知名度は高いとは言えないと考えることから、今後の知名度アップ等の考えを問う	(1) 臨海部企業、株坂角総本舗、カゴメ株等、知名度の高い企業に加え、細井平洲先生、聚楽園大仏、木田城跡、ランの道等、魅力いっぱい東海市だが、知名度アップ及びシビックプライドの醸成についてどのように考えているか (2) 市内の駅において、周辺の史跡や公共施設を案内する等、本市の魅力の発信等に努める考えはあるか	
	2 ふるさと納税の活用も、本市の知名度アップの一つの方法であるが、今後の考えを問う	(1) ふるさと納税を活用した本市の知名度アップをどのように考えているか	
2 ランの道の魅力向上について	1 日本唯一のランの道を、市内外にアピールするとともに、さらに魅力を向上させる必要があると思うが、今後の考え等を問う	(1) ランの道の魅力を市内外にアピールするため、キラキラ輝くような愛称をつけると良いと思うが、本市の考えはどのようなか (2) ランの道の整備は、令和4年5月の植栽会をもって概ね完成しているが、令和5年度以降の取組はどのようなか	
3 災害時の避難場所について	1 広域避難場所に指定されていない学校における市民総合防災訓練の実施や防災資機材倉庫の整備について問う	(1) これまで広域避難場所に指定されていない学校において、市民総合防災訓練が開催されている場合があるが、今後の考え方はどのようなか (2) 防災資機材倉庫内にある資機材の災害時の活用方法はどのように想定されているか	
	2 弾道ミサイルが発射された場合等に備えて、全国瞬時警報システム（Jアラート）等による試験放送訓練が定期的実施されているが、Jアラートが実際に配信された場合の対応について問う	(1) ミサイル情報は市民にどのように伝達されるのか (2) 市内には地下に避難できる施設が少ないが、市民はどのような行動をとればよいのか (3) ミサイル等の武力攻撃から市民の生命、身体及び財産を守るための本市の取組はどのようなか	

<p>4 学校給食の食物アレルギー対策について</p>	<p>1 令和5年1月に学校給食で、食物アレルギー対応が必要な児童に食物アレルギー成分を含む食品を提供した事案が発生しているが、今後の再発防止策等について問う</p>	<p>(1) 発覚してから、同様の食物アレルギーを持つ児童生徒の保護者への連絡・説明までの一連の対応はどのようなか (2) これまで行っていた日常的な食物アレルギー対応及び今回の事案が発生した原因はどのようなか (3) 今回の事案を踏まえ、食物アレルギー成分の確認体制及び万が一誤って食物アレルギー成分の入った食品を提供した場合の対応マニュアル等、今後の再発防止策はどのようなか</p>	
<p>5 敬老の家の維持・運営等について</p>	<p>1 敬老の家及び健康交流の家は、シニアクラブをはじめ、地域の高齢者が気軽に交流できる憩いの場として長年利用されており、各地域の歴史が詰まっている施設である。そこで、敬老の家の維持・運営等について、今後の考え等を問う</p>	<p>(1) 過去3年間の敬老の家及び健康交流の家の利用者数はどのようなか。また、今後、増加が見込まれる高齢者の活動環境の整備の重要性について、どのように考えているか (2) 敬老の家の廃止や複合化等を検討する際、利用者をはじめ、町内会・自治会及びコミュニティとの調整はどのように行われるのか。また、調整過程において、どのような課題があると認識しているのか (3) 廃止や複合化等により利用者の活動に制限がかかる場合、代替となる活動場所のあつ旋等、市としてどのように対応する考えか</p>	

質 問 者	5 江 川 祐 之 議 員 (市友会)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 多文化共生社会への対応について	1 愛知県内の外国人県民数は2021年12月末時点で、東京都に次いで全国2位の約26万人で、県の総人口に占める割合は約3.5%となっており、また、在留資格別では、永住者が最も多く増加し続け、永住化・定住化が進んでいること等の背景から、県は、2022年12月に「第4次あいち多文化共生推進プラン」を策定した。外国人市民は、日本の労働力や地域の担い手として活躍が期待される欠かせない存在である一方で、日本人市民の多文化共生に対する理解は十分ではないと考える。本市においても、多くの外国人の移住が予想される中、お互いが尊重し、誰もが住みやすい地域社会の実現に向けた取組等について問う	(1) 本市に居住している外国人の主な国籍及び人数はどのようなか (2) 日本語が不自由な方に対し、水害・地震等の災害の情報提供はどのようなか (3) 外国人児童生徒等に対する、日本語教育等の支援状況はどのようなか	

<p>2 交通安全の取組について</p>	<p>1 2022年の愛知県内の交通事故死者数は137人で、警察庁が保有するデータとしては、1948年以降の統計で、2021年に次ぐ少なさとなり、4年連続で全国ワースト1位を回避したが、前年比ではプラス20人と2015年以来7年振りに増加となった。2022年の交通死亡事故の特徴として、高齢者の犠牲が64人と、死者数全体の約5割を占めている。高齢者の運転操作ミスによる交通事故が多く報道される中で、運転免許証を自主返納される方も今後増えると考え、本市の状況等について問う</p>	<p>(1) 過去3年間で、高齢ドライバーのブレーキやアクセルの踏み間違いによる人身事故事案は何件あったか (2) 過去3年間における高齢者の運転免許証返納状況はどのようなか (3) 高齢ドライバーに対しての交通事故を防止するための対策はどのようなか</p>	
	<p>2 2023年4月から道路交通法が改正される。新学期を迎える前での自転車の安全運転等に係る法改正となり、利用者への周知は大変重要だと考える。ヘルメット装着の努力義務、損害保険の加入義務化について、自転車を運転する上では、自動車同様、運転する年代を問わず危険度は同じであると考え、自転車の安全で適正な利用促進を図る為の取組等について問う</p>	<p>(1) 過去3年間における自転車乗車用ヘルメット購入費補助制度の申請状況はどのようなか (2) 小中学生、高校生、一般市民へ損害保険の加入を促進させるため、どのような働きかけを行っているのか (3) 自転車の安全な利用に係る意識の向上策として、どのような啓発活動を行っているのか</p>	

<p>3 資源の分別について</p>	<p>1 2022年4月にプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が施行され、プラスチック製品の設計から販売、廃棄物の処理までの全体の流れの中で3R+Renewable（リニューアブル）により、循環型経済への移行を押し進めている。日常のプラスチック製品の中で、ペットボトルはラベルとキャップを取り外す分別ルールとなっているが、清掃センターに回収されたペットボトルの中にはキャップとラベルが付いたままに出された物も多くみられる。資源の少ない日本において、今以上に住民一人ひとりの3R意識の向上が必要だと考え、今後の資源の分別について問う</p>	<p>(1) ペットボトルを始めとした、資源の回収における今後の課題はどのようなか (2) ペットボトルの捨て方についてPRされているが、分別ルールと異なるラベルやキャップの付いたペットボトルはどのように処理されているのか</p>	
--------------------	--	--	--

質 問 者	6 工 藤 政 明 議 員 (市友会)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 地球温暖化を防止する取組について	1 カーボンニュートラルの達成に向け、中部圏において大規模水素サプライチェーンの社会実装を自治体や経済団体等が一体となって実施するために設立された推進会議の名称が、令和4年10月に中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議に変更され、推進体制が強化されたことについて、本市の状況と考えを問う	(1) 中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議の設立目的や取組内容をどのように把握しているのか (2) 推進会議に本市が参画している理由はどのようなものなのか (3) 推進体制が強化された理由をどのように把握しているのか。また、カーボンニュートラルの達成に向け、アンモニアの活用にはどのような期待が寄せられているのか (4) 新たな推進体制はどのように定められているのか。また、各ワーキンググループの取組内容をどのように把握しているのか (5) 水素の活用を本市の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に反映する必要性をどのように考えているのか	
	2 次世代自動車と呼ばれている環境性能に優れた自動車の普及を加速させる誘因策について、本市の状況と考えを問う	(1) 平成28年度に購入した燃料電池自動車の公用車を活用した低炭素社会の普及促進及び啓発等の取組は、どのように行われているのか (2) 燃料電池自動車の普及促進に欠くことができない水素ステーションの整備状況及び動向をどのように把握しているのか (3) 公共施設の駐車場に充電スタンド等と呼ばれている電気自動車等充電設備を設置する必要性をどのように考えているのか (4) 環境性能に優れた軽自動車の普及を加速する誘因策として、市町村税である軽自動車税を減免する自治体があるが、軽自動車税の減免に関する調査研究はどのように行われているのか。また、減免の適用をどのように考えているのか	

2 迅速な救命救急に対応する取組について	1 令和3年4月から運用が始まった、119番通報を受信する知多広域消防指令センターと通報者との間でスマートフォンを活用して映像による情報伝達を行う映像通報システムの運用について、本市の状況と考えを問う	(1) 映像通報システムの運用はどのように行われるのか。また、どのような利点があるのか (2) 導入以降のLive119及びLibrary機能の運用実績はどのような状況なのか (3) 映像通報システムの市民への周知はどのように行われているのか。また、運用における問題点や課題及び解決策は整理されているのか	
	2 消防職員が救命救急活動における救助技術の向上に努め、訓練を重ねながら出場を目指している全国消防救助技術大会について、本市の状況と考えを問う	(1) 全国消防救助技術大会はどのように開催されるのか。また、大会開催にはどのような目的や目標が掲げられているのか (2) 大会及び大会出場に向けた本市のこれまでの成績はどのような状況なのか (3) 本市が参加する競技の部門及び種目並びにその数の選定はどのように行われているのか (4) 救助技術の向上に向けた訓練状況や大会出場の意義を市民へ周知する必要性をどのように考えているのか	
3 土砂災害を未然に防止する取組について	1 土砂災害から市民の生命と財産を守るため、土砂災害のおそれのある区域を明らかにし、危険の周知や既存住宅の移転促進等の対策を推進することを定めた、いわゆる土砂災害防止法に指定される区域のうち、建築物に損壊が生じ住民に著しい危害が生じるおそれがある土砂災害特別警戒区域について、本市の状況と考えを問う	(1) 本市における土砂災害特別警戒区域の指定状況はどうか (2) 令和4年12月に県が公表した警戒区域の基礎調査結果をどのように把握しているのか (3) 指定区域内に住宅等を構える戸数や世帯数等の居住状況をどのように把握しているのか (4) 指定解除もしくは土砂災害の防止や軽減のための造成や対策の工事等は、誰がどのように施すことになるのか。また、工事並びに建築物の移転等にはどのような支援措置があるのか (5) 土砂災害による被害の軽減に向けた取組をどのように考えているのか	

質 問 者	7 蓑手純一議員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 若者の政策形成過程への参画について	1 市政との距離を感じている若者がいることを背景に、新城市では若者議会を設置し、若者を取り巻くさまざまな問題について話し合うとともに、若者の力を活かすまちづくりを進めている。新城市が行う若者議会のような、若者が市政に対して自分の意見を表明し、政策形成過程への参画を実感できるような取組と政策に反映させる仕組みづくりの推進について、本市の現状と考えを問う	(1) 若者が活躍できるまちにするため、若者が政策形成過程に参画できる環境づくりが課題であると考えているが、本市の認識と考えはどのようなか (2) 若者の意見や提言を市政に反映させ、若い感性と力強いエネルギーを取り入れながら、若者との協働によるまちづくりの推進に向けた現在の取組はどのようなか (3) 本市の若者が活躍できる場を広げるため、本市も若者議会の設置を検討してはどうか	
2 循環型社会の構築に向けた取組について	1 本市は2022年3月にゼロカーボンシティ宣言を表明したが、2050年までのカーボンニュートラルの実現のためには、市民や事業者の意識向上を図る必要があり、また、令和3年度における本市のペットボトルの回収量は約340トンで、500mlのペットボトル換算では約1,000万本にもなることから、今後はより一層の省資源化に取り組む必要があると考える。そこで、循環型社会の構築に向けた今後の考えを問う	(1) カーボンニュートラルの実現に向けたペットボトルのリサイクルについて、本市の発展的な取組はどのようなか (2) マイボトルを普及させ、ペットボトルを削減することで温室効果ガス排出量の削減に繋がると考えるが、本市の考えはどのようなか	

質 問 者	8 井 上 純 一 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 定期預かりのモデル事業について	1 令和4年の出生数が速報値で80万人を下回り、危機感を持った政府は、令和5年度は異次元の少子化対策に挑戦すると表明した。その対策のひとつとして、令和5年4月より、未就園児を週1～2日程度の定期預かりのモデル事業を始める。本市も在宅育児支援として、民間保育施設と連携し、育児休業明け入園予約制度による空き定員等を活用して定期預かりのモデル事業にチャレンジすべきと考え、今後の取組について問う	(1) 本市の過去3年間の育児休業明け予約入所の申し込み状況はどのようなか (2) 公立保育園と民間保育施設が連携して、国の定期預かりのモデル事業にチャレンジすべきと考えるがどうか	
2 男性の育児参加の促進について	1 令和4年10月より、従来の育児に加えて子どもが生まれた直後に男性が最長4週間休める産後パパ育児がスタートし、更なる男性の育児休業取得率の向上が期待される。一方で、夫の3人に1人が育児をとっても家事・育児が1日2時間以下の「取るだけ育児」の実態が浮き彫りとなっている。取得率向上と同時に男性の育児参加の促進も必要と考え、本市の今後の取組について問う	(1) 妊婦とパートナーと一緒に妊娠中から育児等を学ぶ機会として、妊婦中心の教室の内容等を見直すべきと考えるがどうか (2) 日曜日に児童館でパパママ教室の開催を検討する等、妊娠期から子育て期まで身近な地域で男性も参加しやすい環境づくりを推進すべきと考えるがどうか (3) ガイドブックの作成等、男性の育児参加を促進する取組を検討してはどうか	

<p>3 保育園長寿命化計画について</p>	<p>1 令和4年11月にパブリックコメントを実施した公立保育園と民間保育所等のあり方に関する基本方針(案)では、RC構造(鉄筋コンクリート造)の保育園は耐用年数80年まで使用している。一方、上位計画の東海市公共建築物再編計画では、財政負担の軽減・平準化を目的に長寿命化のための予防的修繕と計画的な更新を実施する。また、更新する際には、複合化や同じ敷地・隣接地への集約化を行い、施設の最適な配置を目指すとしている。そこで、本市の公立保育園の予防的修繕の実施及び更新計画について問う</p>	<p>(1) 公立保育園の予防的修繕の実施及び更新計画についてどのように考えているのか (2) RC構造で最も古い築53年の平洲保育園を耐用年数80年まで使用する考えなのか (3) 基本方針の適正化目標である小学校区に1園の体制の実現に向けて、平洲小学校の施設整備と一体的に平洲保育園の更新を検討すべきと考えるがどうか</p>	
------------------------	--	---	--

<p>4 農業政策について</p>	<p>1 ウクライナ危機をきっかけに、食料を輸入に依存する日本の危うさが浮き彫りになった。政府は食の安全保障の強化策として、令和12年度までにカロリーベース総合食料自給率を45%にする目標を掲げているが、本市の遊休農地は年々増え続けている。農地の集積・集約化や農業の担い手の育成に力を入れる等の農地を維持するための取組とともに本市の地理的特性を活かした農地以外の活用も検討すべきと考え、本市の農業政策について問う</p>	<p>(1) 令和12年度までの本市の経営耕地面積の見通しはどのようなか (2) 本市の農地の集積・集約化の現状をどのように捉えているのか (3) 農地の集積・集約化を推進し、スマート農業の導入支援や農業法人等の担い手の育成に取り組むべきと考えるがどうか (4) 耕作放棄地面積と遊休農地面積の違いをどのように捉えているのか。また、非農地と判断した農地はあるのか (5) 今後、遊休化すると予想される農地に対し、農地以外への活用を地権者へ提案することも必要と考えるがどうか</p>	
-------------------	--	--	--

質 問 者	9 加藤典子議員（日本共産党議員団）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 保育園の在り方について	1 本市における保育園の適正化を図るため、令和4年11月に「公立保育園と民間保育所等のあり方に関する基本方針（案）概要版」に関するパブリックコメントを実施したことについて問う	(1) パブリックコメントに対し、どれだけの意見や質問があり、どのような内容であったか (2) パブリックコメントの他に、基本方針を策定するにあたり、現在、保育園を利用している子どもや保護者から意見を聞くべきではなかったか (3) 令和6年度から廃園に向けて動き出す名和東保育園及び加木屋南保育園に通う子どもがいる保護者の声をどのように把握しているか (4) 計画には明倫保育園の統廃合が挙げられているが、保護者への対応をどのように行うつもりか	
	2 鉄筋コンクリート造の保育園の耐用年数を60年から80年に延長したが、利用者の安全を守るため、より一層の改修や修繕が必要になると考える。そこで、防水工事等の予防保全の考えについて問う	(1) 鉄筋コンクリート造の保育園に対する予防保全の考えについて、具体的にはどのようなか	
	3 国による保育士の配置基準については、昭和22年に定められて以降、現在まで大きく見直されていない状況である。また、待機児童問題により、保育所の定員拡大や設置基準の規制緩和の影響等もあり、保育の質を犠牲にした量的拡大が行われてきたと考える。そこで、保育の質の向上を目指すための取組や考えについて問う	(1) 国の配置基準に対する本市の認識はどのようなか (2) 3歳児の子ども20人に対し、保育士1人の基準を、子ども15人に対し、保育士1人とする本市独自の基準を設けるべきと考えるがどうか (3) 保育の質の向上を目指すため、3歳未満児の1クラスの人数を見直すべきではないか (4) コロナ禍で通常より少人数の保育を実施したことで、どのような影響や効果があったか	

<p>2 市営住宅について</p>	<p>1 今回、移設する下大脇住宅と同様の構造である小池住宅及び明倫住宅においても、高齢者等に配慮した住宅として、移設・建て替えを検討すべきと考える。そこで、まもなく完成する市営住宅「シティ高横須賀」の募集状況と今後の市営住宅の考えについて問う</p>	<p>(1) 令和5年2月に入居者の一般募集を行ったが、募集倍率はどのようであったか (2) 下大脇住宅の移設による建て替えを踏まえ、小池住宅及び明倫住宅における今後の整備方針と建て替えの時期をどのように考えているか</p>	
-------------------	--	---	--

質 問 者	10 村 瀬 進 治 議 員 (青空・維新の会)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 新駅について	1 令和4年12月22日に名古屋鉄道株から発表された新駅の名称に関して、どのようなプロセスにより決定されたのか明らかにされておらず、新駅の開業を楽しみにしている市民からは落胆する声も聞いているが、新駅の名称決定における本市の働きかけ及び新駅の開業に向けた取組等について問う	(1) 新駅の名称が発表されるにあたり、決定から発表までの経緯について、市の把握状況はどのようなか。また、市が駅の建設費用を負担する請願駅と聞いているが、請願駅であるからこそ、市民の声を新駅の名称に生かせるよう働きかけるべきであったと考えるがどうか (2) 南加木屋駅を加木屋駅に改名し、新駅を中ノ池駅とする方が市民からも分かりやすく、加木屋中ノ池駅という名称よりも支持されたと考えるがどうか (3) 新駅の開業に因んだイベントを名古屋鉄道株と協力し、開催する等、市民が心から新駅の開業を喜べるような工夫が必要であると考えているがどうか。また、新駅の利用を促すための取組実施の考えはどうか	
2 投票所について	1 本市には投票所が28箇所あり、期日前投票所が市の中心に2箇所ある。投票所の配置は、投票率にも大きく影響を与える要因となると考えるが、投票所の配置を見直し、投票率の向上に繋げる考えについて問う	(1) 中ノ池地区には市内他地区に比べ、多くの有権者が居住しており、投票所として使用しても問題がないと考えられる集会所もあるが、投票所を設置しない理由は何か。また、中ノ池地区における投票所候補と考えられる中ノ池集会所を投票所として適当であるか確認したことはあるか (2) 安全な投票環境の確保という視点だけでなく、投票率の向上という点からも中ノ池地区に投票所を設けることは最も合理的な選択肢であると考えているが、今後の人口動向を踏まえ、将来的に投票所の配置を見直す考えはあるか	

<p>3 降下ばいじんについて</p>	<p>1 降下ばいじん公害はすでに半世紀以上続いていると考えるが、本市及び臨海部企業による抜本的な改善に繋がる取組実施の考え等について問う</p>	<p>(1) 令和5年1月の市内各測定地点における降下ばいじんの測定結果はどうか。また、市は臨海部企業と協力して様々な取組を行っていると考えているが、効果が出ていると考えるか</p> <p>(2) 今後、市内各測定地点における降下ばいじん量が、1平方キロメートル当たり月3tを下回るよう抜本的な改善に繋がる取組実施の考えはどうか。また、市は臨海部企業と降下ばいじんの減少に向けて、どのような協議を行っているのか</p>	
<p>4 道路照明灯の設置について</p>	<p>1 本市には、現在もなお夜間通行が危険な暗い道路が残されており、再三にわたり改善を求めているものの、実現に至っていない状況である。そこで、市民の通行の安全を確保するため、高横須賀町城山地区の道路に照明灯を設置する考えを問う</p>	<p>(1) 高横須賀町城山地区には、長年にわたり改善を求めているものの道路照明灯が設置されず、通行の危険がある道路が残されているが、道路照明灯の設置について近隣住民から聞き取りを行う考えはあるか</p> <p>(2) 過去に同地区に道路照明灯設置の要望が出されたことがあると聞いているが、今日まで設置がされていないことについて再度、要望者の声を聞いているか。また、要望があった以上、どのような対応を行ったかは、要望者に回答する必要があると考えるが、回答を行っているか</p>	
<p>5 不登校対策について</p>	<p>1 本市における不登校の状況は、約20年前に140人程であった不登校児童生徒が、令和3年度には約260人と大幅に増加しているが、不登校対策について問う</p>	<p>(1) 現在の不登校児童生徒の人数及び不登校に至った原因をどのように分析しているか。また、今後、本市が検討している不登校対策はどうか</p> <p>(2) 不登校という呼び方は、以前使われていた登校拒否という呼び方に比べ、印象が悪くないと考えるため、本人や家族の精神的な負担が軽減されるよう、呼び方を戻すべきであると考えているかどうか</p>	

<p>6 電柱の安全対策について</p>	<p>1 市内には、電柱標識板が設置されていない電柱が多くあり、自動車等による事故の危険性が高くなっていると考えますが、電柱標識板の設置状況及び電柱所有者に設置を求める考えについて問う</p>	<p>(1) 市内の電柱の設置数及び電柱標識板の設置状況を把握しているか (2) 通行者の事故防止の観点から、電柱標識板の設置を電柱所有者に求めていくべきであると考えますがどうか。また、中ノ池地区から横須賀中学校に向かう道路は道幅が狭く、十分な歩道もなく危険であることは言うまでもないが、電柱標識板が設置されていない電柱が複数本あるため、市に改善を依頼しているが、対応状況はどうか</p>	
----------------------	--	---	--